

博物館

1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標（博物館の使命・目的・教育目標）

(理念・目的等)

A群・博物館の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性

A群・博物館の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

★現状(評価)

・現状

明治大学博物館のミッション(抄)

主文

・博物館としての学術研究の成果を公開し、利用者の学習に供する。

・商品部門は「商品を通じた生活文化」、刑事部門は「法と人権」、考古部門は「人類の過去と多様性」をテーマとする。

個別項目

・三つの役割 ①国内有数の資史料収蔵機関として ②学内共同利用機関として ③生涯教育を担う機関として

上記のミッションの主文は常設展リーフレット、ガイドブック、広報紙「ミュージアム・アイズ」、ホームページに掲載し周知している。

→別紙 p.1「1博物館の使命・目的・教育目標」に全文掲載

・長所

博物館の基本である資史料収蔵機関としての役割のみならず、学内や社会との関わりによりさらなる活動の発展を目指している。三つの役割が相互に影響し合い、総合化される事で、より充実した活動を期待する事が出来る。

・問題点

専門性と総合性の両面を求める活動理念に対し、連携事業や総合化を担う人材のさらなる養成が必要である。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

学内連携、社会連携の窓口であり、博物館活動の統合化を担うマネジメント部門の人材養成に一層力を注ぐ必要がある。

(理念・目的等の検証)

C群・博物館の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況

C群・博物館の理念・目的・教育目標の、社会との関わりの中での見直しの状況

★現状(評価)

・現状

理念・目的・教育目標の検証作業として、職場研修を利用して所属員で活動の現状と課題を議論すると共に、定期的に館長、副館長、所属員で活動の現状と課題を議論している。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(健全性、モラル等)
C群・大学としての健全性・誠実性、教職員及び学生のモラルなどを確保するための綱領等の策定状況
★現状(評価)
・現状
・長所
・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針

1 大学の理念・目的および学部等(博物館)の使命・目的・教育目標に基づいた特色ある取組み

(博物館における特色ある取組)
★現状(評価)
・現状 1929年に設立されて以来、80年間近くにわたり、貴重な学術研究資源を収集・保管し、教育・研究、出版・報道の利用に供するとともに、調査研究の成果を社会に還元するため、展覧会・公開講座等の教育普及事業を開催して、建学理念の発揚、社会貢献に資している。
・長所 他大学に類例を見ない、稀少性の高い学術研究資源を体系的に保有している事や、大学院・学部とも連携しつつ専門的知識を用いてこれらを活用している事によって特色ある教育普及事業を実現している。
・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針

2 教育研究組織(博物館の運営組織)

★目的・目標
学長の統督のもとで、理事会の経営戦略との連携をはかるとともに、全学的に教職員との連携態勢を構築する。館長の総括の下、学芸員による収蔵資料の保管や活用、施設・設備の維持、利用者へのサービスを向上させる運営体制を構築する。
(教育研究組織)
A群・博物館の組織の教育研究組織としての適切性、妥当性
★現状(評価)
・現状
(1)館長・副館長

館長は、専任教授の中から学長の推薦で大学が任命する。副館長は、館長の推薦と学長の同意で大学が任命する。館長は、館務を総括する。副館長は、館長を補佐し、館長に事故ある時はその職務を代行する。任期2年で再任はさまたげない。

役職	氏名	所属	専門
館長	杉原重夫	文学部教授	自然地理学
副館長	渡 浩一	政治経済学部教授	日本文化史

任期：2006.4.1～2008.3.31

(2)博物館事務室

①専任職員

博物館事務長の指揮・監督の下、修士の学位を持つ学芸員4名、ミュージアム・マネージメント担当の専任職員1名が館の運営にあたっている。

役職	氏名	担当	専門
事務長学芸員	伊能秀明		法史学
	高橋あけみ	ミュージアム・マネージメント 部門担当	
学芸員	外山 徹	商品・刑事部門担当	博物館学／地域文化
学芸員	島田和高	考古部門担当	旧石器文化
学芸員	日比佳代子	刑事部門担当	日本近世史
学芸員	忽那 敬三	考古部門担当	弥生・古墳文化

②嘱託職員

学芸員の資格を持つ6名が学芸部門およびミュージアム・マネージメント部門の専門的業務を補助している。

	氏名	担当
短期嘱託職員	織田 潤	ミュージアム・マネージメント部門担当
短期嘱託職員	熊野 絢子 *9/30 退職	ミュージアム・マネージメント部門担当
短期嘱託職員	堀 寛子 *10/1 着任	ミュージアム・マネージメント部門担当
短期嘱託職員	竹原万雄	刑事部門担当
短期嘱託職員	渡辺美知代	商品部門担当
短期嘱託職員	佐藤剛大	考古部門担当
短期嘱託職員	佐藤紘子	考古部門担当
特別嘱託職員	山 科 哲	黒耀石研究センター

(3)委員会

①博物館協議会

学部所属の教員(理工学部・農学部については、当面、生田校舎を代表して1名)と事務管理職、あわせて18名によって構成されている。年2回、定例の協議会を開催している。

協議会委員より選出された4名の教員により資料評価分科会が構成されている。

ア.協議会 任期 2005.4.1～2007.3.31

委員長	古屋野素材	情報コミュニケーション学部教授
副委員長	長岡 功	広報部長
	村上 一博	法学部教授
	高橋 昭夫	商学部教授
	山内 健治	政治経済学部教授
	吉村 武彦	文学部教授

	矢島 國雄	文学部教授
	石川日出志	文学部教授
	上杉 和彦	文学部教授
	阿部 芳郎	文学部教授
	宮腰 哲雄	理工学部教授
	薩摩 秀登	経営学部教授
	武田 清治	企画部長
	鈴木 秀幸	総務部大学史資料センター事務長
	小林 哲夫	教育振興部事業課長(教育振興部長)
	平良 仁志	教務事務部資格課程事務長
	熊野 正也	図書館事務部長
	飯澤 文夫	図書館事務部庶務課長

イ.資料評価分科会 任期 2005.4.1～2007.3.31

座長	石川日出志	文学部教授
	高橋 昭夫	商学部教授
	村上 一博	法学部教授
	上杉 和彦	文学部教授

②各種委員会

明治大学黒耀石研究センター運営委員会、大久保忠和考古学振興基金運営委員会、博物館・大学院商学研究科・商学部連携「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会を組織し、具体的・専門的な業務に対応している。

2006年度特別展実行委員会、2007年度秋季特別展実行委員会、同展示検討部会、同準備作業部会を組織し、教員と連携しつつ特別展示の準備・検討を行い、その研究・調査活動の成果を展示している。

ア.明治大学黒耀石研究センター運営委員会

任期:2007.3.15～2008.3.31 ◎は博物館協議会員

委員長	杉原重夫	博物館長	
副委員長	会田 進	岡谷市教育委員会学芸員	
	矢島國雄	明治大学文学部教授	◎
	石川日出志	明治大学文学部教授	◎
	吉田 優	明治大学文学部助教授	
	伊能秀明	明治大学博物館事務長	
	島田和高	明治大学博物館学芸員	
	日比佳代子	明治大学博物館学芸員	
	小野 昭	首都大学東京都市教養部教授	
	小畑弘己	熊本大学文学部教授	
	諏訪間順	小田原市教育委員会学芸員	

イ.2006年度特別展実行委員会

任期 2005.12～2007.3 ◎は博物館協議会委員

委員長	杉原重夫	博物館長博	
	渡 浩一	博物館副館長	
	阿部芳郎	文学部教授	◎
	石川日出志	文学部教授	◎
	熊野正也	図書館事務部長	◎
	古屋野素材	情報コミュニケーション学部教授	◎
	矢島國雄	文学部教授	◎

	吉村武彦	文学部教授	◎
	藤野正治	明治大学博物館友の会会長	
	伊能秀明	博物館事務長	
	高橋あけみ	博物館事務室	
	外山 徹	博物館学芸員	
	島田和高	博物館学芸員	
	日比佳代子	博物館学芸員	
	忽那敬三	博物館学芸員	

ウ.2007年度秋季特別展実行委員会

任期 2006.12～2008.3 ◎は博物館協議会委員

委員長	杉原重夫	博物館長	
	渡 浩一	博物館副館長	
	上杉和彦	文学部教授(日本史)	◎
	門前博之	文学部教授(日本史)	
	平野 満	文学部教授(日本史)	
	吉田 優	文学部助教授(学芸員養成課程・日本史)	
	藤沢 和	農学部教授(景観学)	
	新田貞章	農学部教授(農村史)	
	鈴木秀幸	大学史資料センター事務長	◎
	長野陽次	明治大学博物館友の会副会長	
	伊能秀明	博物館事務長	
	高橋あけみ	博物館事務室	
	外山 徹	博物館学芸員	
	島田和高	博物館学芸員	
	日比佳代子	博物館学芸員	
	忽那敬三	博物館学芸員	

同 展示検討部会

任期 2006.12～2008.3 ◎は博物館協議会委員

座長	門前博之	文学部教授	
	吉田 優	文学部助教授	
	鈴木秀幸	大学史資料センター事務長	◎
	須永一弘	文学部OB	
	原 和之	文学部OB	
	森 朋久	文学部兼任講師・文学部OB	
	外山 徹	博物館学芸員	

同 準備作業部会

任期 2006.9～2006.12.4 ◎は博物館協議会委員

座長	門前博之	文学部教授(日本史)	
	吉田 優	文学部助教授(学芸員養成課程・日本史)	
	外山 徹	博物館学芸員	

エ.久保忠和考古学振興基金運営委員会

任期 2005.4.1～2007.3.31 ◎は博物館協議会委員

委員長	杉原重夫	博物館長	
	安蒜政雄	文学部教授・考古学専攻主任	
	小林三郎	文学部教授・考古学専攻教員	

	石川日出志	文学部教授・考古学専攻教員	◎
	阿部芳郎	文学部教授・考古学専攻教員	◎
	矢島國雄	文学部教授学芸員・養成課程教員	◎
	佐々木憲一	文学部助教授・考古学専攻教員	
	吉田 優	文学部助教授・学芸員養成課程教員	
	小川直裕	文学部OB	
	藤野正治	友の会会長	
	熊野正也	図書館事務部長	◎
	伊能秀明	博物館事務長	

オ.博物館・大学院商学研究科・商学部連携「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会
任期 2006.10～ ◎は博物館協議会委員

座長	高橋昭夫	商学部教授(商品学)	◎
	福田康典	商学部専任講師(市場調査論)	
	外山 徹	博物館学芸員	

(4)学芸員による教育・研究支援

修士の学位を持つ学芸員4名が配置され、専門的業務をつかさどると共に、学芸員資格あるいは修士の学位を持つ嘱託職員6名の補助を得て教育・研究支援にあたっている。

・長所

館長・副館長は、全学的な視野から館務を統括しており、各担当の学芸員は、専門性を発揮して業務を遂行している。

博物館業務を熟知したミュージアム・マネジメント部門が、各業務において適切なマネジメントを行う事によって、各種の教育・研究支援業務が円滑に遂行されている。

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

3 学士課程の教育内容・方法等（博物館の教育普及事業）

(1)教育課程等

(博物館の教育課程)

★目的・目標

本学の教育・研究の成果を社会に還元する装置として、博物館のミッションに基づき、生涯教育の最新動向を踏まえて多彩な教育普及事業を展開する。

A群・学部・学科等の教育課程と各学部・学科等の理念・目的並びに学校教育法第52条、大学設置基準第19条との関連

A群・博物館の理念・目的や教育目標との対応関係における、教育普及事業としてのカリキュラムの体系的性

A群・教育課程における基礎教育、倫理性を培う教育の位置づけ

B群・「専攻に係る専門の学芸」を教授するための専門教育的授業科目とその学部・学科等の理念・目的、学問の体

系性並びに学校教育法第 52 条との適合性

B群・一般教養的授業科目の編成における「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮の適切性

B群・外国語科目の編成における学部・学科等の理念・目的の実現への配慮と「国際化等の進展に適切に対応するため、外国語能力の育成」のための措置の適切性

B群・教育課程の開設授業科目、卒業所要総単位に占める専門教育的授業科目・一般教養的授業科目・外国語科目等の量的配分とその適切性、妥当性

B群・基礎教育と教養教育の実施・運営のための責任体制の確立とその実践状況

C群・グローバル化時代に対応させた教育、倫理性を培う教育、コミュニケーション能力等のスキルを涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教養教育上の位置づけ

C群・起業家的能力を涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教育課程上の位置づけ

C群・学生の心身の健康の保持・増進のための教育的配慮の状況

★現状(評価)

・現状

下記のような社会貢献事業を体系的に実施している。

(1)展覧会

特別展を始めとする展示会の開催により、貴重な学術資源と博物館の調査研究の成果を公開し、学習機会を幅広く提供するとともに、文化財の保護と継承について啓発している。

特別展示室を文学部、商学部、図書館、明治大学大学史資料センター、明治大学リバティ・アカデミー、明治大学東アジア石刻文物研究所、明治大学古代学研究所、国際熊野学会、絵解き研究会、人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本:交流と表象」研究班による展覧会の利用に供し、教育・研究の成果を社会に還元した。

①特別展

2006 年度特別展「掘り出された<子ども>の歴史 ―石器時代から江戸時代まで―」	
主 催	明治大学博物館
共催等	共催: 明治大学リバティ・アカデミー 後援: 千代田区・千代田区教育委員会・産経新聞社・読売新聞社・朝日小学生新聞・日本考古学協会・日本子ども学会・千代田区ミュージアム連絡会・明治大学連合父母会・明治大学校友会 協力: 株式会社アイ・フォスター 株式会社明大サポート
会 期	10 月 7 日(土)～12 月 10 日(日)
入場者数	5191 人
展示概要	日本列島の社会における子ども像の変化について、考古学から復元する。

②主催展覧会

日本の伝統的工芸品 さまざまな意匠表現	
主 催	明治大学博物館
会 期	3月 30 日(木)～4 月 19 日(水)
入場者数	1103 名(4/1～4/19)
展示概要	2005 年度の館務実習参加学生による企画展。4班に分かれた実習生が、「工芸品に見る獅子」「春」「江戸切子と薩摩切子」「人の顔の表現」というテーマを立て、工芸品の“特徴”“価値”“意味”を表現した。

2005 年度新収蔵資料展	
主 催	明治大学博物館
会 期	5月 27 日(土)～6 月 26 日(月)
入場者数	1944 名
展示概要	2005 年度に博物館が収集、また、寄贈を受けた新収蔵資料を紹介します。九谷焼、金工芸品、司法・刑罰関係の古典籍、手錠コレクション、高札、古代中国の銅戈などを展示した。

③共催展覧会

黒耀石の流通を支えた長和の遺跡	
主 催	長和町星くずの里たかやま黒耀石体験ミュージアム 明治大学黒耀石研究センター

会 期	2005年8月31日～9月30日
入場者数	1087名
展示概要	旧長門町と旧和田町の合併記念特別展。町内の石器時代遺跡を一堂に紹介。黒耀石研究センターでは、鷹山遺跡群を紹介。他二会場で開催。

レオナルドのもう一つの遺産	
主 催	明治大学商学部 明治大学博物館 明治大学図書館 明治大学リバティ・アカデミー
会 期	8月23日(水)～9月24日(日)
入場者数	2244名
展示概要	レオナルドの手稿(ファクシミリ版)から、科学技術、建築、天文学、地質学、幾何学、彫刻、絵画論など多岐にわたる業績を紹介。また、レオナルドと交流を持った近代簿記の祖パチョーリの著書原本を展示。

④その他の展覧会

明治大学新収中国石刻貴重拓本展	
主 催	明治大学東アジア石刻文物研究所 明治大学古代学研究所
会 期	4月22日(土)～5月10日(水)
入場者数	1370名
展示概要	明治大学東アジア石刻文物研究所の発足記念として、明治大学が新たに収集整理した中国個人コレクションの墓誌・墓碑拓本の中から、漢代～唐代にわたる貴重な資料約40点を展示公開。

熊野信仰～その教化と参詣	
主 催	明治大学リバティ・アカデミー 国際熊野学会 絵解き研究会 人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本:交流と表象」研究班
会 期	5月13日(土)～5月21日(日)
入場者数	669名
展示概要	5月13・14日に開催された国際熊野学会の学術大会と5月15日開催のリバティ・アカデミー・オープン講座の関連企画として実施。熊野信仰に関する江戸時代の絵画資料・古記録などを展示した。

明大生と学徒兵	
主 催	明治大学大学史資料センター
会 期	7月1日(土)～8月21日(月)
入場者数	2496名
展示概要	第1回学徒出陣となった1人であり、戦場に消えた武石益則(政治経済学部)を中心とする明治大学の学徒兵をテーマに、大学史資料センターの所蔵資料を紹介した。

洞窟に刻まれた末法の石経と聖像―中国河南・宝山霊泉寺の大住聖窟と僧霊裕―	
主 催	明治大学東アジア石刻文物研究所 明治大学古代学研究所 明治大学文学部東アジア史研究室
会 期	2月23日(金)～3月14日(水)
入場者数	563名
展示概要	中国仏教史上の画期、東アジア仏教の起点である6世紀後半(北朝末期・隋代期)、末法思想が大きく影を落とす中、河南安陽に近い宝山霊泉寺の僧霊裕が開いた大住聖窟の石経・聖像の拓本を展示した。

明治大学新収中国石刻貴重拓本展Ⅱ	
主 催	明治大学東アジア石刻文物研究所 明治大学古代学研究所 明治大学文学部東アジア史研究室
会 期	3月17日(土)～3月30日(金)
入場者数	498名

展示概要	東アジア石刻文物研究所が近年収蔵した中国後漢から南北朝・隋唐時代の貴重碑刻拓本の内、顔真卿の初期の作品「郭虚己墓誌」(749年)や「王琳墓誌」(742年)など、新発見や稀見の墓誌や墓碑など22種を展示した。
------	---

⑤コレクション展

テーマ	赤津焼—七釉の景色—
期間	6月22日(木)～9月7日(木)
趣旨	赤津焼の七種類の施釉製品を一堂に会することで、産地特性である施釉技法の多様さを紹介。

テーマ	伝統工芸にみる〈子ども〉の姿
期間	9月8日(金)～11月26日(日)
趣旨	特別展の開催に併せて、郷土玩具など子どもをモチーフにした伝統工芸を展示。

テーマ	憩いの時間-暮らしの彩りとしての伝統的工芸品-
期間	11月27日(月)～2007年2月28日(水)
趣旨	高付加価値商品である伝統的工芸品の商品特性を紹介。2006年度館務実習生による展示。

テーマ	意匠さまざま —甲州印伝・長崎べっ甲・絵ろうそく—
期間	3月1日(木)～5月1日(火)
趣旨	規則正しい模様、素材の風合い、手彩色など、伝統的工芸品の装飾的側面に焦点をあてた。

テーマ	明大コレクション「中国鏡」
期間	2月1日(水)～5月31日(水)
趣旨	考古部門コレクションの中核をなす戦国～唐代の青銅鏡42面。弥生・古墳時代における実年代の比較研究に貴重な役割を果たす貴重な資料を展示公開。

テーマ	明大コレクション7:「井真成墓誌」(レプリカ)
期間	6月7日(水)～1月31日(水)
趣旨	寄贈された遣唐使留学生「井真成」の墓誌レプリカを展示

テーマ	明大コレクション8:「化石人類」
期間	2月1日(木)～3月31日(土)
趣旨	東アジア青銅器と化石人骨関連資料という収集方針にもとづく新収蔵資料の公開。

(2)講演会・講座

博物館入門講座、特別展開関連講座、リバティ・アカデミー連携講座、公開特別講義、博物館友の会と連携した講演会、ギャラリートークなど、多彩な公開講座を開催した。

①博物館入門講座

第44回	「今日から始める古文書講座」		
日時	4月14日～9月1日 金曜日		
定員	14:00～15:30〈全6回〉 定員15名		
講師	日比佳代子(学芸員・刑事部門担当)		
受講料	¥9,000(優待¥8,000)		
受講者	15名	会場	博物館教室
趣旨	古文書解読の初心者を対象に、館蔵品の古文書を教材にして「くずし字」の初歩をレクチャする。		

第45回	「展示ケースの向こう側・[商品]編—日本の伝統的工芸品 What is it?」		
------	--	--	--

日時	5月2日～5月30日 火曜日		
定員	14:00～15:30〈全5回〉 定員20名		
講師	外山 徹(学芸員・刑事商品部門担当)		
受講料	¥7,500(優待¥6,500)		
受講者	9名	会場	博物館教室
趣旨	伝統的工芸品7種目について、何から、どうやって、どのようなものが作られているのか、その全体像をコンパクトに紹介した。		

第46回	「土器の読み描き事はじめ」		
日時	5月10日～6月7日 水曜日 14:00～15:30〈全5回〉 定員10名		
定員			
講師	忽那敬三(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥7,500(優待¥6,500)		
受講数	10名	会場	博物館教室・体験学習室
趣旨	洗浄・拓本・実測という土器の調査方法を実際の資料を使って体験し、土器研究や観察の方法を理解する。		

第47回	「石器の読み描き事はじめ」		
日時	5月11日～6月8日 木曜日 14:00～15:30〈全5回〉 定員10名		
定員			
講師	島田和高(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥7,500(優待¥6,500)		
受講者	6名	会場	博物館教室・体験学習室
趣旨	考古学の基本である遺物(石器)の観察と実測を主眼とした入門講座。考古分野での博物館実物学習の究極の姿。		

第48回	「伝統工芸は今…陶磁器の伝統と現在・三大産地編」		
日時	10月3日～10月31日 火曜日 14:00～15:30〈全5回〉 定員20名		
定員			
講師	外山 徹(商品・刑事部門学芸員)		
受講料	¥7,500(優待¥6,500)		
受講者	12名	会場	博物館教室
趣旨	瀬戸美濃、有田、九谷といった陶磁器産地の自然環境、産地成立の歴史的・社会的背景から、原材料、意匠、技法、製造工程、商品開発の最新動向を紹介。		

第49回	「石器の読み描き事はじめ」		
日時	10月19日～12月7日 木曜日 14:00～15:30〈全7回〉 定員10名		
定員			
講師	島田和高(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥10,500(優待¥9,500)		
受講者	5名	会場	博物館教室・体験学習室
趣旨	考古学の基本である遺物(石器)の観察と実測を主眼とした入門講座。考古分野での実物学習の究極の姿。		

第50回	「博物館おもしろ百科～大江戸・千代田探訪講座～」(協賛:千代田区ミュージアム連絡会)		
日時	10月24日～11月25日 土曜日 14:00～15:30〈全5回〉 定員20名		
定員			
講師	伊能秀明(博物館事務長)、加藤紫識・滝口正哉(千代田区立四番町民俗資料館文化財調査指導員)、佐野森一(古武術研究家)、高木知己(千代田区立四番町歴史民俗資料館学芸員)		
受講料	¥5,000(優待¥4,000)		

受講者	10名	会場	明治大学博物館及び見学地
趣旨	江戸の昔から現代まで政治、経済、文化の中心に位置する千代田区の歴史を訪ね、文化財や名所旧跡の見所、江戸時代の身体運用法などについてレクチャーした。		

第51回	「子どもの考古学」
------	-----------

→(1)－①オ参照

第52回	「今日から始める古文書講座」		
日時 定員	11月10日～1月26日 金曜日 14:00～15:30〈全6回〉 定員15名		
講師	日比佳代子(学芸員・刑事部門担当)		
受講料	¥9,000(優待¥8,000)		
受講者	15名	会場	博物館教室
趣旨	第44回が申込者多数により、申込者全員の受講が出来なかった為、前回と同内容で開講。		

②リバティ・アカデミー連携講座

博物館公開講座「明治大学考古学ゼミナール」第39回 東日本の古墳のマツリと思想			
日時 定員	6月2日～6月30日 金曜日 18:00～20:00〈全5回〉 定員200名		
コーディネーター 小林三郎文学部教授			
講師	古屋紀之(帰宅飛鳥山博物館非常勤調査員)、内山敏行(とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター調査部主査)、忽那敬三(明治大学博物館学芸員)、若狭徹(群馬県教育委員会生涯学習課文化財保護係長)、土生田純之(専修大学文学部教授)		
受講料	¥5,500	受講者数	143名
趣旨	埴輪や副葬品、埋葬施設など総合的な観点から、近年の研究を踏まえつつ東日本の古墳の姿を再検討した。		

博物館公開講座「明治大学考古学ゼミナール」第40回 考古学からみた歴史のなかの子どもと家族・社会			
--	--	--	--

→(1)－①オ参照

寺子屋講座 史料が語る歴史・法・社会—明治大学コレクションから2—			
日時 定員	4月24日～8月7日 月曜日 15:00～16:30〈全10回〉 定員30名		
講師	伊能秀明(博物館事務長)		
受講料	¥22,000	受講者数	名
趣旨	これぞ逸品といえる古典籍や最良質の藩政史料「内藤家文書」を受講者とともに読み解きながら、書物では学べない法の裏側や古書鑑賞の眼の付け所を講義。		

寺子屋講座 内藤家文書の世界を探访する—史料が語る歴史・法・社会3—			
------------------------------------	--	--	--

日時 定員	9月25日～12月4日 月曜日 15:00～16:30〈全10回〉 定員30名		
講師	中村静雄(中村地図研究所所長)、楠元六男(都留文科大学教授)、神崎直美(城西大学経済学部専任講師)、阿部俊夫(福島県歴史資料館歴史資料課長)、増田豪(延岡市内藤記念館学芸員)、伊能秀明(博物館事務長)		
受講料	¥23,500	受講者数	名
趣旨	内藤家文書を題材に、内藤家と江戸、法と治世、文人大名と俳諧、極彩色の絵図と天下一の能面、大事件の裏側と女流旅日記などを紹介する。		

③公開特別講義

伝統的工芸品の経営とマーケティングケース・スタディ:赤津焼(愛知県瀬戸市)—			
日時 定員	7月11日 火曜日 13:00～15:10 定員300名		
講師	加藤裕重(伝統工芸赤津焼・喜多窯霞仙)		
パネラー	高橋昭夫(商学部教授)他		

進行	外山徹(商品部門学芸員)		
資料代	¥300	受講者数	330名
趣旨	大学院商学研究科・商学部との連携した、高橋教授の「商品学」公開特別講義。実用品の製造が伝統的工芸品として受け継がれた背景には、その時々々の経済情勢や生活様式の変化に対応した商品開発や販路開拓があり、作り手は伝統的工芸品をどのように送り出し、使い手はどのように受け入れているのか、基調報告とパネルディスカッションでその最新動向に迫った。		

* (1)-①オ.特別展開連事業

開幕記念特別講演会 「絵画資料から読み解く子ども史ー中世から近世へー」			
日時	10月6日(金) 14:00～15:30		
定員	200名		
講師	黒田日出男(東京大学史料編纂所教授・群馬県立歴史博物館館長・立正大学文学部教授)		
受講料	無料	受講者数	80名
趣旨	絵画資料の検討から、中世から江戸にかけての子ども観の変遷を解き明かす。		

子どもの考古学(明治大学博物館第51回入門講座)			
日時	11月8日～12月6日 全5回 14:00～15:30		
定員	20名		
講師	忽那敬三(明治大学博物館学芸員)		
受講料	¥7,500(優待 ¥6,500)	のべ受講者数	約20名
趣旨	特別展の内容をわかりやすく解説しながら、当時の大人や社会の子どもに向けたまなざしのうつりかわりを考えた。		

「考古学から見た歴史なかの子どもと家族・社会」 (明治大学リバティ・アカデミー第40回博物館公開講座考古学ゼミナール・全5回)			
日時	11月20日～11月24日 金曜日 18:00～20:00		
受講者	定員200名		
コーディネータ 忽那敬三学芸員			
講師	近藤 修(東京大学助教授)、山田康弘(島根大学助教授)、小杉 康(北海道大学助教授)、忽那敬三(明治大学博物館学芸員)、谷川章雄(早稲田大学教授)		
受講料	¥5,500円	受講者数	70名
趣旨	特別展の見所に加え、内藤家文書の存在意義、展示の背景にある江戸時代の社会の特徴や内藤家の領国のあり方について紹介。		

考古学体験教室「手形付土製品をつくってみよう!!」			
日時	11月3日(祝金) 13:00～14:30 定員24名		
講師	忽那敬三(明治大学博物館学芸員)		
受講料	材料費 500円	受講者数	24名
趣旨	縄文時代の手形付土製品の制作実験を通して、用途や制作技法を学ぶ。		

学芸員によるギャラリートーク			
日時	会期中毎週金曜日 11:30～12:00 定員なし		
講師	忽那敬三(明治大学博物館学芸員)		
受講料	無料	受講者数	のべ約40名
趣旨	展示内容のより深い理解に供するため。		

(3)博物館実習

本学学芸員養成課程あるいは、他大学の要請に応じて館務実習生を受託・指導し、国家資格である学芸員資格の取得を希望する学生に対して、博物館の特長を活かした実務教育をおこなった。

館務実習

ア.刑事部門

参加者	明治大学5名・創価大学2名
実習内容	古文書整理、マイクロフィルム整理、錦絵整理他

イ.商品部門

参加者	明治大学4名
実習内容	収蔵資料整理、展示の計画立案(コレクション展「慈いの時間」)・キャプション類製作

ウ.考古部門

参加者	明治大学18名・創価大学1名・専修大学1名・帝京大学1名・日本大学1名
実習内容	資料整理コース 収蔵資料整理、保存処理、坂本万七写真研究所コレクション整理

②見学実習

ア.受入数

見学実習	5月	7月	9月	合計
団体数	1	1	2	4
人数	22	20	54	96

イ.団体一覧

5月	創価大学学芸員課程
7月	早稲田大学教育学部博物館実習
9月	南山大学学芸員養成課程 成蹊学園史料

(4)生涯学習支援

新世代の博物館の望ましいあり方として期待される社会連携事業の推進、とりわけ友の会活動などの生涯学習支援を推進した。

①友の会

ア.会員数

		登録者	活動状況	担当学芸員
博物館友の会		347名	通年	—
分 科 会	古文書を読む会	24名	月1回	外山
	弥生文化研究会	6名	月1回	忽那
	石器文化研究会	13名	月1回	島田
	平成内藤家文書研究会	19名	月1回	伊能
	工芸の会	13名	月1回	外山
草生水の会		3名		

イ.総会 5月13日(土)

ウ.講演会

a講演会「日本考古学2006」4月8日(土)

韓国の旧石器時代	東京大学外国員研究員	金正培
西日本に出土する東日本の縄文土器について	駒沢大学助教授	設楽博巳
天文台構内古墳の発掘調査と成果	三鷹市遺跡調査団	沼上省一
藤原京・平城京の研究動向と最近の調査について	国立歴史民俗博物館助教授	仁藤敦史

b総会特別講演会 5月13日(土)

石舞台古墳・島庄遺跡など最近の発掘調査と曾我氏	京都橘大学教授	猪熊兼勝
-------------------------	---------	------

c明治大学博物館学芸員講演会

内藤家のお家騒動	日比佳代子	7月21日
最新英国ユニバーシティミュージアム事情	伊能秀明	1月24日
江戸時代の村と刑罰をめぐって	日比佳代子	2月23日
小塚原刑場跡をめぐって・現地見学会「小塚原刑場跡と旧日光街道」	伊能秀明	3月24日

d企画展ギャラリー・トーク

明治大学新収中国石刻貴重拓本展	文学部教授	気賀澤保規	5月2日
-----------------	-------	-------	------

e.博物館友の会特別講演会及び会員発表会 3月3日

会員発表会	現代に蘇る縄文美意識について	小松忠史
	私の古文書学習体験について	斉藤協子
	北海道のアスファルト遺物の産地同定分析について	佐々木榮一
	銅鐸の祖型について	土屋哲旺
特別講演会	博物館友の会コンソーシアム構築へ向けて これからの博物館友の会の進むべき道について	友の会顧問・ 図書館事務部長 熊野正也

エ.見学会・実演会

那須 那珂川流域の古代遺跡	6月25日
長野県長和町第2回黒耀石ふるさと祭り町は歩く博物館	8月27～28日
石器製作実演会	10月14日
新潟県縄文文化を味わう:国宝・国重要文化財・国史跡を満喫する旅	10月28日～29日
那須国の古代遺跡見学会	11月26日
特別展「掘り出された子どもの歴史」協賛・房総遺跡・博物館見学会	12月3日
市原市 姉ヶ崎の古墳群を訪れる	3月11日

オ.ボランティア

内容	活動日	登録人数
図書室管理員	土曜日を除く開室日	23名
展示解説員	毎週火・木・金曜日	26名
特別展「掘り出された『子ども』の歴史」受付・案内ボランティア	会期中	30名
特別展「掘り出された『子ども』の歴史」解説	会期中	15名

カ.学習サークル

名称	活動日数	活動内容
古文書を読む会	月1回	外部講師を招き、古文書を題材とする講義を受講。関連史跡見学会の実施。
石器文化研究会	月1回	石器実測図の作製。
弥生文化研究会	月2回	関連文献の講読。公開講演会「墓制から見た弥生時代の家族」(講師 忽那敬三・考古担当学芸員)開催。
工芸の会	月1回	「陶磁器」中心の勉強会。美術館等の展覧会見学。館収蔵品の整理作業。
平成内藤家文書研究会	月1回	延岡藩内藤家文書の解説。出版予定原稿の作成。

キ.連絡会議

月に一度、博物館事務室と友の会役員との連絡会議を実施。

ク.ミュージアム・ショップ

友の会掲示板とブースを設置。リーフレット・チラシ類の配布、講演会・見学会のお知らせや見学会報告を掲示した。

ケ.その他

- ・会報「明治大学博物館友の会会報」発行 年4回
- ・博物館広報紙『ミュージアム・アイズ』に活動紹介記事を寄稿。

② 充真院を学ぶ会(延岡市)

名称	登録者	活動状況	担当学芸員
充真院を学ぶ会(延岡市)	10名	月2回	伊能

(5)アウトリーチ活動

博物館資料を公共の財産ととらえ活用する方策として期待される、アウトリーチ活動を推進した。

- ①宮崎県延岡市 ②長野県小県郡長和町 ③東京都千代田区 ④学びの支援フォーラム

(6)展示解説ボランティア研修

上記(4)-①に関連する生涯教育、もしくは学生を対象とする教育活動の一環としてボランティアを受け入れ養成した。

- ①常設展解説ボランティア ②特別展解説ボランティア

(7)情報提供

教育・研究の成果を幅広く社会に還元するとともに、また、博物館の利用促進をはかるため、事業内容の周知・普及に努めている。

①印刷物 ②報道機関等による取材 ③ミュージアム・ショップ ④ホーム・ページ

(8)教材の提供

近年、期待が高まっている博物館独自の教材開発と利用促進に努めている。

①ワークシート ②ミュージアム・グッズ

→別紙 p3「3博物館の教育普及事業」参照

・長所

欧米や日本の博物館界で注目される最新の動向を踏まえて、少子・高齢社会において望ましい博物館のあり方を構想し、各種の事業を立案・実施している。

実物史資料を積極的に活用したプログラムを行っており、実物史資料を通じた博物館ならではの独自性のある教育普及事業を展開している。

ホームページやチラシ、ポスター、外部標識などを利用した充実した広報活動を行っている。

・問題点

特別展示室の利用要請の高さに答え、効率的な利用を行う為には、業務体制の整理が必要である。

★改善方策

・左記の問題点に対する改善方

特別展示室の貸し出し業務体制を整備して、利用者の展示活動を促すと共に、全学的な活用を促進する。

(社会人、外国人等の見学者への教育上の配慮)

★目的・目標

あらゆる人々に開かれた施設を実現するため、バリア・フリー化を推進する。

C群・社会人学生、外国人留学生、帰国生徒に対する教育課程編成上、教育指導上の配慮

★現状(評価)

・現状

(1)開館日数および時間

利用者へのサービス充実のため、土曜午後・日曜・祝日の開館、授業期間中における夜間延長開館を実施している。

(2)外国人留学生の利用促進

展示によって日本の歴史、文化の理解を促しており、サイン表示類も英語表記を設け、英語・中国語・韓国語のリーフレットを作成している。

・長所

休日や夜間の開館時間を多く確保し、大学の開放を促進している。展示というわかりやすい形で日本の歴史、文化を示している。

・問題点

特に展示部門において、外国語の表記の充実が求められる。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

印刷物は、和文・英文併記とするなど、一層の外国語表示の充実につとめる。

(生涯学習への対応)

★目的・目標

我が国の博物館界では、生涯学習プログラムの新たな展開として、以下のような点が注目されている。

(1) 展覧会・公開講座

展覧会や各種講座の充実・拡充、関連するワークショップや体験学習などの導入。

(2) 自己学習への支援

利用者の自己学習の支援策として、市民参加型のイベントの開催、友の会やボランティアへの支援など、市民の参加により成立する「場」の提供。

(3) アウトリーチ活動

博物館資料を公共財産として活用する、遠隔地での教育サービスの提供。

これらの点において、先進的な実践事例となる事業を展開する。

B群・生涯学習への対応とそのための措置の適切性、妥当性

★現状(評価)

・現状

博物館は、先端研究を担う大学に付属する機関として、先進的な実践事例を提示するため、生涯学習プログラムの研究・開発を実施している。

→3学士課程の教育内容・方法等(博物館の教育普及事業)-(1)および別紙 p.3「3博物館の教育普及事業」参照。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(2) 教育方法等

(教育効果の測定)

★目的・目標

実施した教育普及事業について、第三者的視点による効果測定を実施する。

B群・教育上の効果を測定するための方法の適切性

B群・教育効果や目標達成度及びそれらの測定方法に対する教員間の合意の確立状況

B群・教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みの導入状況

B群・卒業生の進路状況

C群・教育効果の測定方法を開発する仕組みの導入状況

C群・教育効果の測定方法の有効性を検証する仕組みの導入状況

C群・教育効果の測定結果を基礎に、教育改善を行う仕組みの導入状況

C群・国際的、国内的に注目され評価されるような人材の輩出状況

<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 来館者によるアンケート記入、本学の学生、教職員や博物館友の会会員が参加した「自己点検・評価の集い」、特別展のふり返りの会などを開催し、教育効果の測定に努めている。また、博物館友の会から常に改善点の指摘を受けられるように、連絡会議を月1回開催している。改善方法の策定については、週1回の専任職員による定例会議で検討している。</p> <p>・長所 多様な意見の反映を図ることができる。</p> <p>・問題点 博物館の専門家による評価の機会が乏しい。</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方針 アンケート用紙の回収率向上を図るとともに、点検・評価活動により多くの人々が参加できるような方策を講ずる。専門家による評価の機会を設ける。</p>
<p>(教育事業の形態と教育事業の方法の関係)</p>
<p>★目的・目標</p> <p>実物資料の提示が、博物館教育の特徴である。「視覚」「聴覚」「嗅覚」「触覚」に、映像・音響を加え、抽象概念の伝達にとどまらず、五感で体感できる教育形態がメリットを引き出す。公開講座で実物資料の活用を促進し、映像・音響などのメディアミックスによるリアリティある教育事業の形態や方法を工夫する。</p>
<p>B群・教育事業の形態と教育事業の方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性 B群・マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性 B群・「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性</p>
<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 実物資料の提示が、博物館教育事業を特色あるものになっている。また、入門講座等は、AV教室を利用して、ビデオ上映、写真・図版の投影、パソコン画面の拡大投影によるメディアミックス型の講義を実施している。</p> <p>・長所 ビジュアル性の向上、五感に訴える情報提供により、観察力・思考力の向上など学習効果を高めることができる。</p> <p>・問題点</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方針</p>

(3) 国内外における教育研究交流

<p>★目的・目標</p> <p>博物館は、国際的な学術交流に対応できる学術資料を収蔵している。展覧会や研究交流を通して資料の活用を図り、国際交流の推進に資する。</p>
<p>B群・国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性 B群・国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性</p>

C群・外国人教員の受け入れ体制の整備状況

★現状(評価)

・現状

海外からの視察団の見学に対応した。
すでにイタリア中世犯罪博物館と共催による「ヨーロッパ拷問展」(1997年度)、英国大使館後援による「水墨画と筒描藍染で詩うテムズ河旅情」展(1998年度)、韓国国立忠北大学校と共催による「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」展(2004年度)などの特別展を実施している。

・長所

国際的な学術交流に対応できる学術資料を収蔵している。

・問題点

現在は所属員が個々に海外の先進的な博物館事業を取り込むべく努力しているが、組織的にこれを進める必要がある。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

所属員による海外の博物館事業の調査・研究の機会を探る。

5 教員組織

★目的・目標

館長・副館長・協議会委員を委嘱した教職員および学芸員の密接な連携により、博物館の教育研究事業を企画・立案・遂行する方策を策定する。

(教育研究支援職員)

A群・実験・実習を伴う教育、外国語教育、情報処理関連教育等を実施するための人的補助体制の整備状況と人員配置の適切性

B群・教員と教育研究支援職員との間の連携・協力関係の適切性

C群・ティーチング・アシスタントの制度化の状況とその活用の適切性

★現状(評価)

・現状

(1)学芸員による教育研究支援

学芸員4名が配置され、それぞれ専門的職務をつかさどり、教育研究支援にあたっている。

(2)教員、専門研究者との共同プロジェクト体制

展示会や収蔵資料整理などは、学芸員、教員、専門研究者による共同研究プロジェクトとして実行している。

→別紙 p.1「2博物館の運営組織」参照。

・長所

収蔵資料の管理と継承、博物館独自の教育サービスの提供などは、学芸員が専門的知識をもとに日常的運営を遂行している。

資料収集や展示品貸借に関わり発生する他の博物館、官公庁との折衝や書類作成などの博物館専門業務については、この分野に精通したミュージアム・マネージメント担当職員が中心となり日常的運営を遂行している。

・問題点

学芸員養成課程のカリキュラムにおける館務実習に対応するため、学芸員が学長の委嘱状を受けて受託指導をおこなっている。館務実習の望ましいあり方については、博物館法等の規定があいまいであり、博物館学でもあまり言及されておらず、問題点が指摘されている。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

教育研究支援職員として学芸員は、恒常的にスキルアップを図るとともに、教職員と学芸員とのより密接な連携による教育研究事業を企画・立案・遂行する方策を策定する。館務実習については、指導にあたる学芸員の専門職としての制度的な確立を検討する。

6 研究活動と研究環境

★目的・目標

展覧会や収蔵資料整理などは、館蔵コレクションにもとづく共同研究プロジェクトとして実行する。学芸員は、業務遂行上必要なスキルアップのため、研究活動をおこなう。

(1) 研究活動

(研究活動)

A群・論文等研究成果の発表状況

C群・国内外の学会での活動状況

C群・博物館として特筆すべき研究分野での研究活動状況

C群・研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況

★現状(評価)

・現状

学芸員は、『博物館研究報告』に論文を執筆している。また、勤務時間外に調査研究活動に積極的に従事するとともに、専門分野の学会に所属し研究成果を発表している。特色あるコレクションである内藤家文書と黒耀石に関する調査研究活動が、進展している。

→別紙p.10「6研究活動と研究環境—(1)」、p.13「8博物館収蔵資料および図書・電子媒体等—(1)③」参照。

・長所

事務職採用だが、調査研究活動に対応できる学芸員が配置されている。

・問題点

学芸員の調査研究活動が、制度的に保証されていない。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

調査研究活動は、学芸業務を遂行するスキルを維持するために不可欠である。学芸員の専門職としての制度的な確立を検討する。

(教育研究組織単位間の研究上の連携)

A群・附置研究所とこれを設置する博物館との関係

C群・大学共同利用機関、学内共同利用施設等である博物館とこれが置かれる大学・大学院との関係

★現状(評価)

・現状

(1)本学と長和町(旧長門町・旧和田村)との「明治大学及び長門町における社会連携事業の推進に関する協定書」(2006年6月30日締結)にもとづき、明治大学黒耀石研究センターを拠点として協定事業が推進されている。

(2)学内共同利用機関として、特別展示室を文学部、商学部、図書館、明治大学大学史資料センター、明治大学リバティ・アカデミー、明治大学東アジア石刻文物研究所、明治大学古代学研究所、国際熊野学会、絵解き研究会、人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本:交流と表象」研究班による展覧会の利用に供し、教育・研究の成果を社会に還元することができた。

→別紙p.4「3博物館の教育普及事業—(1)③④」参照

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

学内共同利用機関として機能を強化し、特別展や学内外の諸団体による展覧会その他の生涯教育事業を一層充実させ、「知」の社会貢献を推進する。

(2) 研究環境

(経常的な研究条件の整備)

A群・個人研究費、研究旅費の額の適切性

A群・教員個室等の教員研究室の整備状況

A群・教員の研究時間を確保させる方途の適切性

A群・研究活動に必要な研修機会確保のための方策の適切性

B群・共同研究費の制度化の状況とその運用の適切性

★現状(評価)

・現状

学会や公的機関・民間企業の主催する各種研修に出張し、研鑽を深めている。

→別紙 p.11「6研究活動と研究環境—(2)」参照

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(競争的な研究環境創出のための措置)

C群・科学研究費補助金及び研究助成財団などへの研究助成金の申請とその採択の状況

C群・学内に確立されているデュアルサポートシステム(基般(経常)的研究資金と競争的研究資金で構成される研

究費のシステム)の運用の適切性

C群・流動研究部門、流動的研究施設の設置・運用の状況

C群・いわゆる「大部門化」等、研究組織を弾力化するための措置の適切性

★現状(評価)

・現状

平成18年度特別補助(事業団分) V生涯学習推進特別経費 4「公開講座・施設等の開放」(2)大学施設の開放を受けた。

平成18年度特別補助(事業団分)

補助項目	申請額	内定額
V生涯学習推進特別経費 4「公開講座・施設等の開放」 (2)大学施設の開放	35,009 千円	15,000 千円

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(研究上の成果の公表、発信・受信等)

C群・研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性

C群・国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況

★現状(評価)

・現状

(1)『博物館研究報告』をはじめ、博物館の刊行物に研究成果を発表している。

→別紙p.10「6研究活動と研究環境—(1)②」参照

(2)国内外の大学や研究機関、文化財担当の官公庁から研究成果として刊行物の寄贈を受けている。

図書購入・寄贈数

年 度	2004.10～	2005	2006	合計
購 入 一般図書	58	214	184	456
入 雑誌	34	53	76	163
受贈数	1,315	2,173	1861	5,349
遡及数	0	6,069	8248	14,317
合 計	1,407	8,509	10,369	20,285

※数値はデータ・ベースへの入力数

※遡及数は過去に博物館予算で購入もしくは博物館で受贈した図書の図書館へ移管した数

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

7 施設・設備等

★目的・目標

2004年4月1日の新博物館開館により、施設・設備面で飛躍的に充実した。あらゆる人々に開かれた施設を実現するため、施設の運用段階で発見された課題を逐次解消するよう努力する。

(施設・設備等の整備)

A群・博物館の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

B群・教育の用に供する情報処理機器などの配備状況

C群・社会へ開放される施設・設備の整備状況

C群・記念施設・保存建物の保存・活用の状況

★現状(評価)

・現状

(1)収蔵室

収蔵資料の特質に応じて最適な条件を設定し、望ましい保存環境の維持に努めた。

(2)展示室

安全で快適な室内環境を維持し、逐次、証明器具・サイン表示類を更新し、整備した。

(3)図書室

安全で快適な室内環境の維持に努めた。受付ボランティアが入退出管理を担当し、閲覧席や書架の秩序を維持した。

(4)その他

各室の温・湿度を測定し、環境条件の向上に努めた。館の所在がわかりにくいという指摘に対し、屋外バナーサインを掲出した。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(利用上の配慮)

A群・施設・設備面における障害者への配慮の状況

C群・各施設の利用時間に対する配慮の状況

C群・キャンパス間の移動を円滑にするための交通動線・交通手段の整備状況

★現状(評価)

・現状

(1)博物館は、不特定多数の来館者への対応が必要であり、館内の段差を解消したバリア・フリー化を実現した。

身体障害者・高齢者用の車イス、乳幼児用のバギーを用意し、要所に点字ブロックを設置したほか、誰でも使用できる多目的トイレを設置した。

(2)学校週5日制や、勤労者に対する教育サービスとして、土曜・日曜・祝日も開館した。

(3)文学部等からの要請に応え、図書室利用の便宜を図るため、週2日開館時間延長(16時30分～18時30分)をおこなった。

→別紙p.11「7施設・設備等―(1)」参照

- ・長所
- ・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方針

(組織・管理体制)

- B群・施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況
- B群・施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況

★現状(評価)

・現状

- (1)建物の保守・管理を担当する中央監視室(専門業者へ業務委託)と協力し、良好な環境の維持・管理に努めている。
- (2)中央監視室および防災・警備を担当する防災センター(専門業者へ業務委託)と協力し、監視カメラを設置して不測の事態や不審者をモニターするとともに、感熱器・煙探知器があり、火災発生の感知に備えている。博物館は、大学の防災体制において第3消防小隊第1班として編成され、定期的に防災訓練・避難誘導訓練を実施している。火災発生時は、自動的に作動する消防・防火設備が設置されている。

・長所

保守・管理の専門業者と現場担当者による二重の管理体制が組織されている。

・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方針

不特定多数の利用する施設を管理する立場として、平素から安全管理システムの改善に取り組む。

8 図書館および図書・電子媒体等(博物館収蔵資料および図書・電子媒体等)

★目的・目標

収蔵資料体系の充実に努め、新たにコレクションを収集するとともに、寄贈資料を受け入れる。研究者・学生や研究機関等の調査研究に資するとともに、教科書や研究書、一般書等の出版・報道の利用に供する。本学図書館所蔵図書の内、博物館の展示テーマに関連する図書を閲覧に供する。

(博物館の整備)

- A群・博物館資料、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性
- A群・博物館施設の規模、機器・備品の整備状況とその適切性、有効性
- A群・図書室・閲覧室の座席数、開館時間、利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性、適切性
- A群・図書室の一般利用者への開放の状況

★現状(評価)

・現状

(1)資料の収集

刑事、商品、考古3部門の特色ある資料体系の充実のため資料を収集・受贈した。

(2)資料利用対応

資料の利用に関する規定を改正し、研究者・学生や研究機関等の調査研究に資するとともに、教科書や研究書、一般書等の出版・報道の利用に供した。

(3)資料整理

館蔵コレクションの利用促進を図るため、資料収蔵体系の整序に努めた。

(4)資料記録

資料利用のニーズに応じるため、資料目録の刊行、収蔵資料の写真撮影やデジタルデータ化、マイクロ撮影を推進し、情報提供・資料利用体制の整備に努めた。

(5)資料修復

館蔵コレクションの利用促進を図るとともに、恒久的な保存処置を施すため、資料修復を継続的に実施している。

(6)図書室

開架方式の図書室で十数万冊におよぶ関連文献を閲覧に供するとともに、図書館と連携して図書の所在情報を一元化するため、データ・ベース構築に着手した。閲覧座席は16席を確保し、週2日開館時間を延長し、夜間の利用に対応した。

→別紙p.12「8博物館収蔵資料および図書・電子媒体等」参照

・長所

80年近くにわたる収集活動の結果、国内の博物館でも有数の博物館資料・図書を所蔵しており、豊富な資料を利活用することができる。

・問題点

図書の所在情報が図書館と一元化されていない為、学内全体での図書管理に不備をきたしている。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

資料選定や選書は、一層の充実化と若干の見直しをおこなう。図書情報の遡及入力によって、データ・ベースを逐次整備する。

(学術情報へのアクセス)

B群・学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況

★現状(評価)

・現状

(1)所蔵資料の記録・保存

①考古部門 2000～2004年度にわたり、5年計画で所蔵写真のデジタル化をおこなった。

②刑事部門 館蔵「内藤家文書」のマイクロ・フィルム撮影(継続中)と史料目録のデジタル・データ化をおこなった。

③その他 利用頻度の高い資料写真のデジタル化を推進した。

資料記録

ア.撮影

2007 年度特別展出展資料(村絵図)フィルム撮影

高札フィルム撮影

イ.デジタル化

2007 年度特別展出展資料(村絵図)フィルム、高札フィルム(刑事部門)

資料修復

資料名	修復内容
豊臣秀吉書状	裏打ち
日向国臼杵郡・宮崎郡絵図(内藤家文書)	虫損部補修・裏打ち
日向国臼杵郡・宮崎郡絵図(内藤家文書)	虫損部補修・裏打ち
丹後国何鹿郡山論絵図	接合・虫損部補修
相模国内山村山論絵図	接合・虫損部補修
武蔵国袋山村絵図	接合・洗浄
武蔵国小林村内堤通論所出入図	裏打ち
出羽国観音寺村絵図	裏打ち
出羽国船町村絵図	裏打ち
伊勢国桑名郡長島絵図	接合・虫損部補修
伊勢国鈴鹿郡・三重郡水論絵図	裏打ち
記念館前遺跡出土木器計41点	劣化防止のため、下駄、木簡、漆椀等に保存処理

(2)図書資料の所在情報一元化

新規受入れ分の入力・遡及入力ともに図書館の基準により実施している。

(3)情報提供システムの整備

『研究報告』、広報紙『ミュージアム・アイズ』、資料集、目録、図録等を刊行・頒布しているほか、資料目録や『研究報告』は外部機関によりインターネット上で公開されている。

→別紙p.11「6研究活動と研究環境—(1)③」参照

・長所

・問題点

学術情報の記録・保存については、継続的に取り組んでいるが、情報公開・提供については、デジタル化への早急な対応が課題である。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

情報提供用のシステム構築、ホームページ等を通しての適切な提供方法について検討を進め、システム構築作業の第一段階として、データのデジタル化作業を進める。

9 社会貢献

(社会への貢献)

★目的・目標

博物館は、本来的に社会貢献を目的とした機関であり、社会への開放・社会連携を積極的に推進する。

B群・社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度

B群・公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況

B群・教育研究上の成果の市民への還元状況

C群・ボランティア等を教育システムに取り入れ地域社会への貢献を行っている大学・学部等における、そうした取り組みの有効性
 C群・地方自治体等の政策形成への寄与の状況
 C群・大学附属病院の地域医療機関としての貢献度

★現状(評価)

・現状

(1)展示の公開と公開講座を通じて、教育研究成果を社会に還元した。
 →別紙p.3「3博物館の教育普及事業」参照

(2)文部科学省委託事業平成18年度「地域教育力再生プラン」全国博物館における地域子ども教室推進事業を受託した。

文部科学省委託事業平成18年度「地域教育力再生プラン」

全国博物館における地域子ども教室推進事業	委託費
明治大学博物館地域子ども教室	887,474円

ア.実施事業名と内容

1	〈博物館へ遊びに来ませんか！楽しいことがいっぱいあるよ、キット！〉 →常設展示室内の畳敷きのブースでの活動(絵手紙用ポストカードに展示資料をスケッチ からくり人形を使い江戸時代の遊びを体験 縄文縄目付け折紙 クイズラリー)	毎週火・木・金	
2	夏休み親子向けバックヤードツアー	8/18・24	43名
3	特別展「掘り出された〈子ども〉の歴史」考古学体験教室「手形・足形をつけた土製品を作ってみよう！」	11/3	16名
4	折紙を使って「花紋折りパッケージ」を作ってみよう！	12/21	0
5	中学生のための博物館バックヤードツアー	12/23	0
6	土偶を作ってみよう！	3/17	25名

イ.実施期間 2006年8月1日～2007年3月31日 開催日数 58日

ウ.参加人数 566名 未就学児(4%) 小学校低学年(22%) 小学校高学年(16%) 中学生(35%) 高校・大学生(23%) 保護者ほか93名

エ.指導員とボランティア

実行委員12名 コーディネーター1名、ボランティア(博物館友の会展示解説員)のべ174名

オ.配布物

「ミュージアム探検ノート」(各300部)第1弾[2006年度特別展 掘り出された〈子ども〉の歴史]第2弾「明治大学いろは」第3弾「Mm ADVENTURE」

子ども向けガイドブック「MEJI UNIVERSITY MUSEUM Kids Guide」(900部)

(3)博物館友の会や学生によるボランティア活動をサポートした。

→別紙p.7・8「3博物館の教育普及事業—(4)(6)」参照

(4)地域連携事業(長野県長和町・宮崎県延岡市・東京都千代田区)を推進した。

→別紙p.15「9社会貢献—(1)」参照

(5)そのほか自治体等による施設視察や研修などを受け入れ、対応した。

→別紙p.11「7社会貢献—(2)(3)」参照

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

大学博物館の特性をさらに発揮し、より高度な生涯学習のニーズに対応するために、新規事業の研究・開発を進める。

(企業等との連携)

★目的・目標

産学公民おのおのの長所を生かして役割を分担するとともに、博物館の長所を社会で有効活用してもらうために、外部機関との連携を積極的に推進する。

C群・企業と連携して社会人向けの教育プログラムを運用している大学・学部における、そうした教育プログラムの内容とその運用の適切性

C群・寄附講座の開設状況

C群・大学と大学以外の社会的組織体との教育研究上の連携策

C群・企業等との共同研究、受託研究の規模・体制・推進の状況

C群・特許・技術移転を促進する体制の整備・推進状況

C群・産学連携に伴う倫理綱領の整備とその実践状況

★現状(評価)

・現状

明治大学商学部の模擬ベンチャー会社 Meiji Museum Consulting(=MMC)の企画運営による「レオナルドもう一つの遺産」展に、特別展示室を提供した。

→別紙p.4「3博物館の教育普及事業—(1)③」参照

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

10 学生生活

★目的・目標

博物館資料およびそれに関連する専門的研究の従事者に対して、積極的に支援する。

(学生への経済的支援)

A群・奨学金その他学生への経済的支援を図るための措置の有効性、適切性

C群・各種奨学金へのアクセスを容易にするような学生への情報提供の状況とその適切性

★現状(評価)

・現状

考古学・博物館学を研究する大学院生・一般社会人を対象として、研究奨励基金事業をおこなっている。情報提供については、関連分野を担当する本学教員、卒業生のネットワークを活用している。

→別紙p.15「10学生生活—(1)」参照。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

12 財務

★目的・目標

博物館事業の拡充にともなう経費の一助とするため、外部資金の獲得に努め、大学の財政基盤の強化に寄与する。

(外部資金等)

B群・文部科学省科学研究費、外部資金(寄附金、受託研究費、共同研究費など)、資産運用益等の受け入れ状況

★現状(評価)

・現状

平成18年度特別補助(事業団分)Ⅴ生涯学習推進特別経費 4「公開講座・施設等の開放」(2)大学施設の開放の補助金の受け入れとともに、文部科学省委託事業平成18年度「地域教育力再生プラン」全国博物館における地域子ども教室推進事業を受託した。

→別紙 p.16「12財務-(1)」参照

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

13 事務組織

★目的・目標

収蔵資料の管理、博物館独自の教育サービスの提供など、恒常的な運営には学芸員の役割が不可欠である。教育研究支援職員として専門的職務を司る学芸員の恒常的なスキルアップを図り、教職員と学芸員との密接な連携により、教育研究事業を企画・立案・遂行する方策を策定する。

(事務組織と教学組織との関係)

A群・事務組織と教学組織との間の連携協力関係の確立状況

B群・大学運営における、事務組織と教学組織の相対的独自性と有機的一体性を確保させる方途の適切性

★現状(評価)

・現状

→5教員組織(教育研究支援職員)参照

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

→5教員組織(教育研究支援職員)参照

(事務組織の機能強化のための取り組み)

C群・事務組織の専門性の向上と業務の効率化を図るための方途の適切性

C群・教学上のアドミニストレータ養成への配慮の状況

★現状(評価)

・現状

収蔵資料の管理、博物館独自の教育サービスの提供など、恒常的な運営には専門的職務を司る学芸員の役割に負うところが大きい。職務に必要なスキルの向上、機能の強化に取り組んでいる。

・長所

・問題点

学芸員の位置付けについては、専門職としての制度的保障がない。研究のための時間や設備は認められておらず、調査研究等の活動は、個人的負担で行っている。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

学芸員の専門性を向上させ、博物館事業へ反映させたい。専門職としての学芸員制度の確立を検討する。

14 自己点検・評価

★目的・目標

公共的機関として博物館事業の適正化のため、博物館全般において外部評価が注目されている。外部評価にたえうる博物館運営を目指し、自己点検・評価活動を推進する。

(自己点検・評価)

A群・自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

C群・自己点検・評価プロセスに、学生・卒業生や雇用主などを含む学外者の意見を反映させる仕組みの導入状況

★現状(評価)

・現状

自己点検・評価委員会を組織した。また、博物館協議会において自己点検・評価報告書を提示し、検討を依頼した。

一般来館者にも開かれた「博物館事業のふりかえりの会」を実施し、博物館友の会会員等から、博物館活動に対する多様な質問・要望を受けた。

博物館友の会から改善点の指摘を受けられるように、定期的に連絡会議を開催している。

・長所

委員は、博物館業務に精通しており、博物館を自己点検・評価するには適する。点検・評価事業の実施により、外部者による多様な意見を反映できる。

・問題点

公器としての博物館の性格を考慮すると、より多くの人々が点検・評価事業に関わる必要がある。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

一般来館者にも開かれた「博物館事業のふりかえりの会」開催の広報に力を入れる。

(自己点検・評価と改善・改革システムの連結)

A群・自己点検・評価の結果を基礎に、将来の発展に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

★現状(評価)

・現状

前年度の自己点検・評価の結果を元に、次年度の「教育・研究に関する年度計画書」を策定し、学長に提出している。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(博物館に対する社会的評価等)

C群・博物館の社会的評価の検証状況

C群・他大学にはない特色や「活力」の検証状況

★現状(評価)

・現状

(1)1998年3月、大学基準協会による相互評価の認定通知で、本学の長所として評価された。

(2)文部科学省から年少者向け事業の充実度が評価され、2001年度に「親しむ博物館づくり事業」、2004年度、2006年度に「地域子ども教室」の実施を委託された。

→別紙 p.16「12財務-(1)」参照

(3)大学博物館の先進的モデルケースとして、官公庁、自治体、国内外の大学・研究機関、各種教育団体による視察・研修が増加している。

→別紙 p.11「7施設・設備等-(2)(3)」参照

(4)充実した収蔵資料や、学問的水準を保ちながらもわかりやすい展示に対して、報道機関・出版社による取材が増加している。

→別紙 p.9「3博物館の教育普及事業-(7)②」参照

・長所

・問題点

博物館の専門家による評価機会が少ない。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

博物館の専門家による評価機会を実現する。東京都教育委員会による博物館相当施設登録申請へ向けて、準備を継続する。

15 情報公開・説明責任

★目的・目標

事業内容に関する情報公開は、公器としての博物館にとって責務の一つであり、改善に向けて外部評価を受け入れるためにも、積極的に情報公開策を講じる。

(財政公開)

A群・財政公開の状況とその内容・方法の適切性

★現状(評価)

・現状

1994年度以降、年度ごとに『博物館年報』を刊行し、収支状況を公開している。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(自己点検・評価)

A群・自己点検・評価結果の学内外への発信状況とその適切性

B群・外部評価結果の学内外への発信状況とその適切性

★現状(評価)

・現状

1994年度以降、年度ごとに『博物館年報』を刊行し、学外の関係各機関に対して前年度の事業に関する総括を報告している。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

引き続き『博物館年報』の内容的充実をめるとともに、博物館の望ましいあり方について点検・項目を策定し、評価を『博物館年報』や広報紙に掲載することを検討する。